

令和5年度 いのちの授業 事例集（特別支援学校）【特別活動】

掲載数

8

管轄	学年	教科等	テーマ	内容	参考事項（講師・教材等）
1 川崎市	中複合	特別活動	防災教育 「避難訓練③ 起震車」	実際の避難を想定して繰り返し練習することでイレギュラー時に対応できるよう、学校全体の避難訓練に加え、中学部全体での避難訓練を計画した。その中にはシェイクアウトや煙体験など実際の場面を想定した活動を取り入れた。回数を重ねることでスムーズな避難ができるようになってきた。今回は起震車体験を行い、大きな揺れを体験し、地震の怖さやその中で自身の身を守るための方法などを知り、実践した。	・ 中学部全学年で実施 ・ 消防署職員 来校 起震車体験
2 神奈川県	中複合	特別活動	健康教育 「薬について」	入院・入所している生徒たちにとって大切な「薬」について薬剤師より話を聞いた。薬剤師の仕事、薬とは何か、また何のためにあるのかについて考えた。さらに、正しい服用の仕方とともに、「薬と薬の相性が悪いものや、効果が薄れるものもある」ということを、一人ひとり実際に実験し、体験することで、より自分のこととして学ぶことができた。生徒からは、「苦手な薬だけど大切に飲もうと思う」という感想が出た。	講師：こども医療センター薬剤科 薬剤師
3 神奈川県	高複合	特別活動	防災学習 「消火体験」 「校内宿泊」 「避難所設営体験」 「防災食体験」	1年生の校内での宿泊学習を防災学習の一環として行った。平塚消防の方を講師に迎え、学部全体で消火器体験を行った。また知的部門高等部と連携し、段ボールベッドの組み立てとその様子を見学を行い、避難所設営体験とした。また夜には実際にそのベッドで眠る体験も行った。夕食・朝食はレトルト食などを用い、防災食を食事とした。実際に体育館に泊まり、非日常を体験した。またこの宿泊学習に向けての事前学習で避難訓練も行い災害時の行動について練習を重ねた。防災頭巾をかぶれる時間が長くなるなどの効果もあり、命を守るための行動を学ぶことができた。	講師：平塚消防職員 肢体不自由教育部門高等部1～3年 知的障害教育部門高等部3年生
4 神奈川県	高2	特別活動	性教育「心と体の 交わりー性行為」	性行為は男女の性器が交わる行為であるが、心が通い合っていることが大切である。それについて、グループに分かれて、わかりやすく学べるようにした。また、一方的な行為は、性犯罪や性トラブルにつながりやすいことから性行為にまつわる事例の共有（ストーリー、痴漢、パパ活など）を行った。生徒たちは、情報としてすでに知っていることも多く、興味本位ではなく身近な問題として、話し合うことができた。	知的障害教育部門高等部2年生の担任団が各グループ（4グループに分けて実施）のリーダーを担い、パワーポイントを用いて実施
5 神奈川県	高3	特別活動	いのちの尊さ 「メダカの飼育」	本学部ではメダカの飼育を行っており、生徒が毎朝の歩行訓練の際に、水槽の様子を確認して餌やりをしたり水質の管理を行ったりした。年間を通して、係の仕事として教員とともに続けることができた。死んでしまうメダカもいたが、朝の会などを通じてクラスで話題にし、命について考える機会となった。	肢体不自由教育部門高等部1・3年生

6	神奈川県	高1	特別活動	防災宿泊学習 「災害発生時の 対応」	本校は土砂災害警戒区域に隣接している学校のため、地震以外の気象災害にも警戒する必要がある。そのため、地域が災害時に孤立してしまうことを想定し、高等部1年次に防災宿泊学習を行い、災害から身を守ることや実際に災害発生時に校内に留まって生活する学習を行った。近隣地域の方とともに避難所で使用される用具の組み立てや防災食の調理などを体験した。地域の方々との共同作業や身近なところで災害が起こることを知り、災害時の行動を学ぶことができた。	
7	神奈川県	小複合	特別活動	誕生日会	毎月、身近な友だちの誕生日を祝福した。誕生日の歌を歌い、簡単なゲーム等をして、友だちから誕生日の友だちにカードを渡す等の活動をした。通年で、お祝いをする中で、誕生日＝友だちが産まれた日は喜ばしいこと、ということをしつづつ理解し、人が誕生することや、その命を大切にすることを学んできた。回数を重ねることで、自分の誕生日を意識して喜んだり、「おめでとう」と言いながら友だちにカードを渡したりするなどの様子が見られた。	誕生日の児童がいる月には行っているため、通年で行っていることが多い。肢体不自由部門と知的障害教育部門の同学年で一緒に行っている学年が多いため、各学年単位でそれぞれ行っている。
8	神奈川県	高1	特別活動	防災教育	学校の体育館に避難したことを想定して1泊2日の宿泊学習を行った。段ボールベッドや簡易トイレの設営、ドライシャンプーの体験を行った。食事は夕朝食とも防災食を喫食し、夜は段ボールで仕切った体育館のフロアに寝袋にくるまって就寝した。日中は消防署署員を講師に招き消火器訓練を行ったり、地域防災拠点である近隣の中学校の見学に行ったりした。生徒は日常とは異なる宿泊体験に関心をもって取り組んでいた。避難所を想定した空間でもみんなと協力して楽しく過ごせることや、防災食が意外とおいしいことなどに気づくことができた。災害時にいのちをどう守るか、生徒だけではなく教員、保護者、地域も一緒になって考える機会となった。	高等部1年で1泊2日の校内宿泊学習として実施。事前学習は内容に応じ各教科（社会・理科・家庭等）でも扱っている。煙体験や消火器訓練は近隣消防署員に講師を依頼、地域防災拠点見学は近隣中学校との連携で実施した。